

タマサート大学シリントン国際工学部留学報告書

社会システム工学科 4年
福岡 紀枝

私は2008年6月から10月までの約5ヶ月、タイ王立タマサート大学シリントン国際工学部(以下SIIT)に留学してきました。今回SIITに留学するにあたって私は以下のような3つの目標をたてました。

- ・土木の設計・構造分野におけるタイと日本の相違点について学ぶ。
- ・語学力の向上。
- ・タイの文化や歴史に触れる。

という目標です。

まず、1つ目の目標である「土木の設計・構造分野におけるタイと日本の相違点について学ぶ」についてですが、SIITは国際工学部ということもありコンクリートの配合においてタイ国内における配合設計方法だけでなく同時に日本、アメリカの配合設計方法についても学びました。実際に講義の中で演習問題を解き、タイ、アメリカ、日本の配合設計の結果を並べてみると同じ条件にも関わらずセメントや水・骨材の単位量が全く違う結果となりとても驚きました。また、鉄筋コンクリートの講義においてもACIの設計方法を用いてT-beamやDeep beam、column、footingについての設計方法を学び、グループ課題として家の設計図を基に柱、梁、階段、フーチングなどの設計を行いました。私が生活していた寮の隣が建築現場でした。そのため、6月から帰国まで毎日部屋から建物が建っていく様子を見ることができました。タイは地震の発生頻度が日本と比較すると低いいため日本の建築物よりも、柱や使用されている鉄筋は細いものでした。タイの建築現場の様子を間近で見ることができたため、SIITでの講義だけでなく実際に自分の目でタイと日本の建築現場における違いを勉強することができました。

次に、「語学力の向上」についてです。タイに留学する前の私の語学(英語)力は英語が苦手ということもあり中学、高校、大学と勉強してきたのにも関わらず、ほぼゼロに等しいものでした。そのため、タイに行ってすぐの時は国際交流センターの方の話やオリエンテーション等で説明されていることが分からず、同じ日本人の留学生に通訳してもらったり、同じ説明を話すスピードを変えて何度も何度も説明してもらったりしていました。もちろんSIITでの講義は英語です。初めは講義の内容を聞き取るのに必死でそれでも3時間ある

講義の内容のうち2割から3割聞き取れば良いほうだったため、聞き取れなかったところは友達にノートを借りたり講義が終われば部屋で辞書を片手に部屋でその日受けた講義の復習、講義の前日には予習したりというサイクルの繰り返しでした。また、同じ講義を履修している友達に講義前や講義後に話しかけられても答えられず、紙に書いてもらったり、電子辞書を使って単語の意味を調べながら会話をしたりするのが精一杯で会話のキャッチボールが一方通行になっていることにもどかしを感じていました。しかし、時間が経つにつれて講義の内容や友達、先生方が話している内容が少しずつ聞き取れるようになり、友達との英語での日常会話がとても楽しくなりました。帰国前にはいつも話している友達との会話であればほぼ1回で話の内容が聞き取れるようになりました。まだまだ自分の持っているボキャブラリーが少ないためスムーズに日常会話はできませんが今回の留学を通して英語で他国の人とコミュニケーションを取るといふことの大切さを学びました。今回の留学で英語が苦手な私がある程度コミュニケーションをとれる位に成長できたのは、私がいかに会話の内容を理解できていないのにも関わらずいつも話しかけてくれ、私の英語に一生懸命耳を傾けてくれた友達のおかげです。

最後に「タイの文化や歴史に触れる」という目標についてです。5ヶ月間の留学期間中、休日はいつも友達と王宮や寺院、遺跡に海にと様々なところに旅行に行っていました。私たちが訪れたのが休日ということもありますが、寺院はいつも参拝客でいっぱい、タイ人の仏教に対する信仰心の高さには驚きましたが、自分たちが信仰している宗教を大切にすることは素晴らしい文化だと思いました。また、タイには各地に1000年以上も前に造られた建築物が遺跡として現存しており、場所によっては町中に大小合わせて数百の遺跡が残っていたり修復がされておらず当時のままの状態が残っていたりする遺跡がたくさんありました。やはりテレビで見ると実際に自分の目で見るのでは大違いで、今から1000年以上も前に造られたものが今も残っており、当時の人たちが歩いていたところを1000年以上経った今、自分が歩いているのだと思うと不思議な気持ちになりました。またタイの人々はみんなとても親切で私たちが道を聞くと丁寧に教えてくれ、バスの待ち時間などにはタイ語の会話帳を使って話したり、簡単なタイ語を教えてもらったりと、いつもタイ人の優しさに触れることができた旅でした。そして、5ヶ月の間タイ各地へ旅行に行きましたがどこへ旅行に行っても現地の人みんな英語が話せることに驚きました。

5ヶ月間の留学を通して留学前に苦手だった英語に対しても苦手意識が無くなりました。まだまだ、簡単な日常会話しかできませんが英語を勉強することの楽しさを見つけることができたのと同時に、『英語』の重要性を再認識させられました。日本で生活していると普段の生活の中で全くと言って良いほど英語でコミュニケーションをとる事が無いので「英語なんて使わないし・・・」と思いながら生活していました。しかし今回の留學生活を通して、『他国の人とコミュニケーションをとれる英語力』が今の私たちにどれだけ必要なもので

あるか痛感しました。また英語以外においても、日本とタイの相違点を自分が大学で学んでいる分野から見ることができたため、建築や土木構造といった社会基盤整備の違いを知ることができ、タイの歴史や文化、タイ人の優しい人柄に触れ、日本ではなかなか経験できないようなことまで経験することができました。そして、タイと日本の相違点を知ることによって今まで生活していた日本を様々な角度から客観的に見ることができたのではないかと思います。私が日本を離れ、タイで5ヶ月間生活できたのは工科大から一緒に留学したメンバーはもちろん、SIITで出会った留学メンバー、SIITで会えばいつも挨拶してくれ、英語の分からない私に最後まで優しく接してくれた友達・研究室のメンバーおかげです。日本での生活が再スタートしましたが、今回の留学で学んだことを今後の勉強・研究に活かしていくことと、自分の意見を正確に伝えることのできる英語力の習得を目標に勉強していきたいと思います。